

立命館大学文学部

木立雅朗教授 最終記念講義

# 考古学研究と社会

—窯業考古学と京都学を中心に—

〈木立教授からのメッセージ〉

私は古代の須恵器窯跡群である丹波篠窯跡群の調査を行いながら、江戸時代の鳴滝乾山窯跡、近現代の京焼登り窯の考古学的調査を行ってきました。調査では文献資料だけでなく、民俗学・実験考古学の助けを得る必要があり、「窯業考古学」という総合的な視座を提起してきました。これらの調査の過程で地域の伝統工芸、友禅染や西陣織にも関わり、「京都学」の必要性を痛感させられました。近年では観光公害が大きな問題になり、地域に根差した歴史学の役割が改めて問い直されていると感じています。最終講義では京都で実践してきた研究成果と課題を紹介し、考古学研究と社会が連動できるのか模索したいと思います。



木立雅朗教授 調査地  
(五条坂の窯)

日時

2026年2月22日（日）  
10:00～11:30（9:30 開場）

場所

立命館大学衣笠キャンパス  
KM201号教室（啓明館2階）

京都府京都市北区等持院北町 56-1  
（京都市バス・西日本 JR バス 立命館大学前バス停下車）

参加費  
無料

事前参加申し込み不要  
オンライン同時配信あり

<https://ritsumeai-ac-jp.zoom.us/j/95628923836?pwd=vZCV7ToBPSR7iprxrMbG6TQ2zQ0qoP.1>

ミーティングID: 956 2892 3836

パスコード: 300644



《木立雅朗教授 略歴》

1960年 7月12日生まれ

1984年 3月 立命館大学文学部卒業

1989年 4月 石川県埋蔵文化財センター

1995年 4月 立命館大学文学部助教授

2004年 4月 立命館大学文学部教授

《主な研究業績》

『《五条坂南側町並散華の図》を読む-伊吹弘による鎮魂-』『近代京都の美術工芸II-学理・応用・経営-』思文閣出版（2024年）

『観光公害と文化遺産-京都の伝統工芸の現状と課題から-』『歴史評論』890、歴史科学協議会（2024年）